俳諧新

011.3
八
夏

俳諧新十家類題集夏部

目録

四月　立夏　青簾　白重　更衣　袷 一丁　灌佛
花御堂　安居　短夜　夏夜 二丁　扨宇 三丁　布穀
老鶯　水鷄 七丁　牡丹　杜若 八丁　罌粟花 九丁　紫
陽花　葵　百合　苔桃花 十丁　酸漿花　茂花
藪椿　卯花　若楓　葉櫻　若葉 十二丁　夏木立
木下闇　茂り　常盤木落葉 十三丁　榊花　山梔子花
合歡花　樗花　柳花　南天花　柚花　盧橘
麦秋 十三丁　古茶　鰹　初鰹　蚊　蚊遣火 十四丁　蚊

帳　蝸牛　蝙蝠　蚤　蚋　羽蟻 十五丁

五月　端午　樂日　粽　菖蒲虫　菖蒲賣　菖

蒲菁 十六丁　竹酔日　筍　吾竹　花菖蒲 十七丁　萍

藻花　田植　早少女　早苗 十八丁　覆盆子　蒸

蓼　苣蕓　茄子　菅薹　夏草　夏野　夏山

五月雨 十九丁　夏月 廿丁　蛍 廿二丁　鳴浮巣　鵜飼 廿三丁

鱇　火串　照射　鹿子 廿四丁

六月　嘉祥 廿四丁　青嵐　風薫　涼 廿五丁　暑　白雨

廿六丁　雲峯 廿七丁　清水　涵井　虫干　帷子　夏瘦

抱籠 廿八丁　扇　團扇　葛水　水飯　青田　蓮

畫顔 廿九丁　夕顔　瞿麦　石竹　麻　紅花 卅丁　綿

花　瓜　瓜花　青蓮　蟬 卅一丁　練雲雀　青鷺

施采　御祓　夏越祓 卅二丁

俳諧新十家類題集夏部

河内 俳諧堂 来報
浪華 阿里園六巒 両編

四月

実九月 [illegible] 肥る 四月弐 士朗
[illegible] 爲 [illegible] 道麦

立夏

[illegible] 夏 [illegible] 升六
[illegible] 人 [illegible] 成美

青簾 白重

[illegible]夏と[illegible]や[illegible]月居
[illegible]白[illegible]　完来

更衣　裕

我[illegible]成美
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]升六
[illegible]

[illegible]士朗
[illegible]定來
[illegible]
[illegible]升六
[illegible]成美

灌佛　花洗堂　安居

灌仏や[illegible]升六
[illegible]士朗
灌仏や[illegible]崔　蓍虬
灌仏や[illegible]崔　蓍虬

花清堂八潮は星人のもひ行 蒼机
安居守屋八しつふ井は首 升六

短夜 夏夜

短夜はうとうとも月は肥よ行 寄渕
うとうとねるとも杜丹は花のと 乙二
短夜はねるふるるる森宝武 月居
短夜は鳥は巣の神く世八淫八や 道彦
うとうとねや掃うとうとうとも 狐
うとうとねるとうとうとうとく眠るとうとも 升六
夏は夜をつぐ毎日はまとうとれ 樗堂

杜

夏は夜八出 器は夜はまとうとう 成美
鶏

海川は海先西やかとうとう芝夜
芝生も待つとうとう郭ろ、
まとうとやかはとうとう時鳥、
いひせまとうとうとうとや白松は牡丹、
郭ろいうとうとうとうとうとうとう 升六
かとうとうとう東近ハはかとうとう、
時ろまとうとうとうとう花は行ハ、
一とうとうハ雀とうとう郭ろ、

子規　江を越す春の行くやうける　奇淵

少年の雪ふるとこそ郭公　郭公

宵の月八幡の灯を郭公

時の雨かくと大津の松の郭公

郭公初音けしの花の鄙

杜鵑うしの尾をふるしけり

杜宇鳴やふるも山の雲　乙二

降る雨に信つ雪の郭公

時鳥明やそこの桔木の

伊勢山や神代ながら郭公　樗堂

扇をゝ郭公やりとかくこそ

老の身に初音もはつる杜宇

何ぞ文ちらすを杜鵑

鳴ぬといふ人ぞ知かくこそ

郭公ふるかけて川の中

蛤の口にくうへやかくこそ

かくこそ蕎麦とすゝを演命堂

月の雨の日の山やうに郭公

ちらくとふりうるを杜宇　成美

芋落の葉ひらひらと郭公

峰の入日の初霜の時し　杜宇
ひとつとしてこの月ひとつとして郭公
峰といつの山さまたちこの郭公
杜鵑　峰東方を北海にかたり　蒼虬
郭公　鳴くなり　鳴くなり　なつかしかりし
蘭　ぞ　ぞ　ぞ　杜宇
杜鵑　鳴くや　楓の　雨の　夜
滝　長　旭　ぞ　の　郭公
杜鵑　鳴くや　松　汐　ひ　く　と
杜鵑　字　ぞ　ぞ　ぞ　月　松

蘭　ぞ　ぞ　ぞ　杜宇
月　井　ぞ　ぞ　ぞ　ひかり　杜宇
時　ぞ　ぞ　ぞ　ぞ　ぞ　ぞ　ぞ
時　ぞ　ぞ　ぞ　ぞ　ぞ　ぞ　ぞ
蓮　生　ぞ　ぞ　ぞ　月　郭公
白　家　ぞ　ぞ　ぞ　ぞ　ぞ　郭公
郭公　ぞ　ぞ　ぞ　ぞ　ぞ　ぞ　ぞ
子　規　年　ぞ　ぞ　ぞ　ぞ　ぞ
百　人　ぞ　一　首　ぞ　郭公
郭公　風　楫　ぞ　ぞ　ぞ　ぞ

布

穀

かんぞうの場や 樵夫を好る人々、
清風のひやうこうに 軍者、

老梅

梅の木の子りうく好りく 老を好 定家
梅好老ぬさきう 梅田杉松 芝先
梅好老の好るう 在うれ 士訓
を雖

久こうきうきうの山を好る雖 井六
梅こう木好岡を、いつかく好る雖 寺法
蔵家や句を好りつたつくれ、

曉好風をかひ梅りを雖さて、
蕾好梅の蕾は好る好る雖、
梅好と已う知りく好る雖 ひこ
を雖雪や蕾八は蕾のつまりく、
白河の田植名こを好る雖、
樵人好白ひ鶯を好る雖 寺訓
いくばくのうひ好きも好る雖 月居
曉好を雖いつを好るさる、
竹を好りに家好ちう好る雖 蕾先
好る良くくれ初雖 蕾先

牡丹

[illegible] 定林
国くの[illegible]
[illegible] 国は牡丹はさうね
[illegible] 升六
[illegible] 牡丹
[illegible] 牡丹
[illegible] 牡丹かな
[illegible] 牡丹越
[illegible]

芭子花

松の枝又野を[illegible]
[illegible] 蓉九
[illegible] 牡丹
[illegible] 牡丹
[illegible] 牡丹
[illegible] 牡丹
[illegible] 牡丹
[illegible] 牡丹
[illegible] 月居
[illegible] 寄信
[illegible]
[illegible] 牡丹

牡丹

百事也なく家は何とも見ぬ　定明
國くの宮にも何と見るれ　ゝ
ことかれ國は牡丹はさかねと　石岸
若葉は牡丹堀にて寺は蓮　升六
嶋山は家の軒やさ牡丹哉　寿燈
夕ぐれや大事よしまよ牡丹哉　ゝ
灯をともしに行き牡丹かな見り　ゝ
月のくれ霧まもくもりし牡丹越し　乙二

芥子花

松の精よ野をひるけふ芥子花　蒼虬
磨ぬや一輪見ゆる牡丹　ゝ
こし路は花は咲あり芥子哉　ゝ
一むらし赤川やふれは牡丹　ゝ
かれつくす井はまた初る　ゝ
日はと見かなる池は牡丹　ゝ
暖は都になりけり牡丹　月居
山は木の実ともむすぶ牡丹　斎滔
西寺は雨白く咲つる　乙二
むしろや傍な皆す牡丹　ゝ

代つたく流も彩行りかたつたく　定家
美しきやゆたかなる言はは　道彦
はしりつゝ面よりけるやたつたく　丶

蠟梁花

蠟う家は一もとけ〳〵八咲よりけり　道彦
松うきやゆけ〳〵は答はたくたくの　寄潔
花けし〳〵や宮もたくうるわれの　乙二
白とは拔よたく〳〵は花　樗堂
見たくあのはは一つもちたくは花　丶
白きは〳〵はたくら言も花白哉　士朗

寺は会ふ月の寺見たくたくう　丶
白むる何たくは寺は〳〵はたくは　丶
すたくはは蠟うつたけたくは花　蓼丸
道たくは一見月〳〵ふ寺は蓼　丶
言たくたくも白たくは寺は〳〵人成　丶
蟻は寺く記たくつたけは一言成　丶
寺〳〵成たくゆく道すたくは言ゆり　寄潔
白けしふ油たけ寺り去　地蔵　成美

蠟陽花　葵

うたくたくゆゆたくく地たくく風は等　乙二

いつちをあけよい日よ水うの海棠色　寿隆
てるまけく花はちひさき花　英うれ、

百合

もはいをあ我ふうれつ百合花　成美
古家や芋はかまをもうはれ、
をちこちはかの家のをもうはれ　寿隆

苔花

ちうしいくつもこ苔花　乙二
ゆくるかや苔さこ入る松風　樗堂
しつうをもふかるかの苔花、

竹やりもちうしかを苔花　士朗
まるくやうはくはく苔花　升六
苔はの花ちるくみひうう　寿隆

酸漿花

かうこはの花はの白みもうこうう　乙二
かうこはの花雨うこと鳴こあ、
酸漿は花午文字ふ尾式　樗堂

茨花　薔薇

茨の花の花ふ花ふ花式　乙二
初ちくまちこ白一薔薇　升六

卯花

卯花もちて垣ゆ人男うれ　士朗

卯の花の白月八幡山家　蓼丸

うぶ花ぶ中うぶ白ぶ月ぶ人　成美

うぶ白年うぶ花幸花夕うれ　乙二

若楓　葉櫻

宜祢うぶ　影抱く若楓　摂堂

りうく葉ぶ葉ぶ葉ぶ　探ぶ　定雄

若葉

流ぶ離　ぶ葉ぶ　ぶ　士朗

月ぶ葉ぶ葉ぶ　ぶ八ぶ　ぶ

白ぶ月ぶ月ぶ　ぶ夕ぶ　ぶ

一日乃ぶ　ぶ葉ぶ　蓼丸

ぶ白ぶ　ぶ　成美

小山ぶ　ぶ葉ぶ　、

温ぶ月ぶ　ぶ月ぶ　寄谷

ぶ老ぶ　ぶ老ぶ　摂堂

門口ぶ　ぶ葉ぶ　成美

夏木立

蟬ぶ　ぶ厨ぶ　ぶ夏木立　逸彦

[illegible] 月居
[illegible] 升六
[illegible]
[illegible]
[illegible]

木下闇　茂り

[illegible] 道彦
[illegible] 升六
[illegible] 乙二

[illegible]

[illegible] 升六
[illegible]
[illegible] 升六

榊花　山梔子花　合歓花

[illegible] 升六
[illegible] 乙二
[illegible] 升六

樗花　楝花　南天花

[illegible] 旁房
[illegible] 樗生

南天の花　七二

柚花

白妙の紙帽子とも小菊　士朗

白妙の花の白さ　升六

白妙の花のまよひ人や　奇淵

橘

さもさぶの三河の花橘　士朗

橘の一かうふる白うの　奇淵

麦秋

麦刈の麦刈松の夕日　士朗

麦秋や山ゑもとり砂の絵　道彦

古菜

古菜の色のうつるも春の月　升六

鄭

ふる鄭小藻をうつ初はつ　七二

鄭の色はうつるとうつるとうつる

稀人の弦音藻永き柱とし　月居

初鯉

芋の戸や人の金の初鯉を　樗堂

めの縁ふつ紅ちらし鯉の　道彦

蚊

蚊よ蚊よ何故さもしや弥勒仏　し二
蚊一つに苦をもとめたまふ、
苗代の蚊は何を星はやうに、
我庵の蚊は清水しらに蚊はさとく　元禄
蚊は蚊なれども小さき蚊は朝を伝　成美
蚊を追ふ蚊を追ふ蚊や蚊は蚊　道彦
小庵や蚊を追ふ蚊は来ひ、

蚊遣火

蚊遣火や人の住家とうもるる、
かやりの中ゆすぶる柱ふる　青湖
大いなる杜を刈るやうやうの、
蚊やりの煙ゆらゆらかやり子　月居
蚊やりの煙ゆらゆらかやり子　蓼紀
身ひとりをあつかまうる蚊遣、

蚊帳

うれはしやうひつく波不二庵　月居
朝毎や蓮の花ちる蚊帳かな　蓼紀
ふるぬしをうれはる家やきく毛、

イニ道夫
完成

二ノ十

蚊帳を吊くいろいろ変もし 奇説
かやを入る時分別 ハ外うしり、
世ようのなりはやり蚊帳、
記紀ものくれ葉さしはかやは完 樗堂

蝎牛 蝙蝠

山風はあをを薄はそうろう 乙二
そうりや秀衡ようは油さし、
蓼食くはしらはさし蚊冷多、

蚤 蚋 羽蟻

蚤は法さゆるまくもんはを山、

拾ようは知もたくもり蚤は法 升六
蚋 たうよ本蓑は保坂は小西 士朗
蚤ようは三りうは西は羽蟻 升六

五月

夕涼午こうより蚊はさつ紀 樗堂
ようのは花はさうはあうれ 升六

端午 菖日 粽

あるうりあくひはさくるはいやす 蓉
りはは菖の家は節分うれ 升六

菖蒲曳　菖蒲賣　菖蒲葺

士朗

月居

竹酔日

竹

士朗

成美

参丸

竹ばかりや出口にさきのこりけり　升六

竹の中や竹と竹とふれあふて　青流

竹ばかりの高くつゝのぶ春哉　〃

大のきふ竹ゑて王う翁ゑまれ　〃

善竹

善竹や二本ゑりし庭の新　士朗

善竹を洗ひ清ゆる流水の　月居

花菖蒲

初花はまつ咲ゑるこゝろかな　青流

花ゆゑや九條ふむし扇やぶ　月居

三ノ十七

蓮　藻花

うたくさやけさはたゝ花さかり　〃

蓮やさけさにはつゝ花さかり　〃

蓮や多はくまく峰の雀　青流

はす花や杉ゑゝ花ゑ　升六

田植

家ゑ年朝はるの行ゑ田植ゑ　青流

植つまく〻主さゝ千ゑ山田ゑ　〃

ゑ方はゑ小神はゑ田植ゑ　樗堂

わゑ星はゑ教ゑ田植はゑ　士朗

植くいめるゝ山田もと麻ゆゑかゝりけり 、

植る手の笠ハ人ゆ田哥かな 言水

ひとやくと植くにきこえり田一枚 道彦

苗植るあらぬ降りけりすゝき川 、

しやんしやんときつゝきく行田植かな 升六

早少女 早苗

早少女や掛りてとかく植て行 月居

早少女よいそふてもらぬ小屋の人 蓼乱

葛きける所々ん早苗ゆこされかな 斉蝶

植くやらきまかし早苗舟 月居

覆盆子

山賤ハ日照雨降けりいちごかな 乙二

蓼 蓼

草ゆ座蓼ゆ雲ゆちりけり 、

蓼ゆ紅や二葉しく紅にけさ 道彦

大きゝくゆりつゝ世かゝる納ゆ祁广 、

紫蘇 茄子 苣薹

紫蘇植畑や胡麻ゆ生の流れ川 升六

茄子なんどもも夏ハ身を掛りに行 成美

鶏鶏ゆさすにのひ手の苣ゆ臺 升六

夏草　夏野　夏山

夏草や人はいはれぬ柴の戸　定林

ゆくゑなくなきすてゝ夏雲雀　乙二

夕ぐれの入あひ寒し夏雲雀　道彦

何ものは言いのこせし夏の月　樗堂

傘よりもたゆたふ夏の月　成美

五月雨

さゝなみや水田のとゝいつまり　樗堂

牛馬はわせ夏日ながらの　〃

さゝなみや濱は小樽をはひゆく　道彦

[illegible]

さゝなみの晴るく頃鶴鳥なれ　士朗
みちのくの南さかの花うるさき　、
みちのくの山の降さゝなる山ゝ　月居
みちのくを押わたしの望落のを　、
さゝなみやうらなる湖る山の家　蓼太
みちのくや高く居りし法華堂　、
さゝなみの行くあるぬるうの　完来
みちのくの柳ゆく小舟　、
蓬や桶の井さゝつる雨　成美
みちのくや我菖蒲いつの時　、

夏月

山人の山笑ひ刈や夏の月　乙二
山の井のふかさ知しる夏の月　、
萩萩ちるこゝろ・こゝろ夏の月　士朗
夏の月ゆるしくしるるるる　、
いかつりの松の宿の夏の月　月居
さゝなみの宮の夏の月　、
笠の上ふつゝの夏の月　、
移ひの葉のさゝなるさゝの夏の月　、

夜はまたむさと落くる霰つぶて　蒼九
夜ものや根はいつまで月桜、
舟人は寝覚のかん夜の月　定林
猿まろく音はむかふる夜は涼　成美
三日月は小家を夜すたれけり、
夜はまた梅はおもしは枝高し、
夜はまた毎は一葉もさわぐさる、
さればやうやく出ぬるほどの夜はまだ、
宵るや吉日は夜は月　升六
草山や夜半まで出ぬ夜はまだ　斉流

鵲は何ほどかゝる夜はまだ　標堂
峰のはなれこうかれ夜はまだ、

螢

降し出す螢は出る薮の末、
宵は来や大井の川をゆく螢　士朗
うれしくもめのうへ磨や飛螢、
草の根も夕べをしる光かな　月居
日くれには螢のかずのふえまさり　成美
濱松や白きゆびさきゆく螢、
紙燭して見えし螢よ消ぬかな、

杉芝のようにゆく雲、
芋は家八百万通より出る雲、
小まくらは寄ふつくや花かるる、
かくしのおいそいくも雲まる、
杉むらは下を出るの雲うれ 道長
背戸川やうかれく花ちる 升六
藤はふむ望を雲とうかう 斎居
うちりく家を踊るかうる、
太は白や雲をも出る左は、
雲ゆや雀うの家は升はる事 七二

鬼灯は花ハくるる花雲、
山は編はるも雲も春の式、
薄家はのりはとうふ雲れ、
朝こうは雲のふる雲れ、

鳩浮巣

雲うるる湖に西は浮巣式 升六
鳩は巣も活はるふる式 七二
芦雲うるるる浮巣式 斎居

鵜飼

夕雨や鵜飼つとはる、

いかなれやうけ鵜をとる百姓腰丈　乙二
鵜遣ひしてしらぬ小夜嵐　、
夕暮れし鵜の迷ふ初あね　、
鵜の篝消て岩角の火のひかり　士朗
篝消て鵜の鵜ぐるしさ　、
いつも月は鵜、舟よ誰かなれ　、
見るより鵜のあとり鵜舟哉　、
うの篝見える松も鵜のけり　蒼虬
暁鐘を鵜せく舟けうの篝　、
其風やうく出くる鵜舟哉　、

鰷

山風やおもく見える鵜の篝　、
山もとや鰷のくるしき鵜の篝　新洲
鰷さえまく宿の鵜まさき朝の鵜　道彦

火串　照射

松の葉の燃るうる火串哉　蒼虬
山の端へいつもいつる火串哉　外六
打向と消てるやりゃみの月　士朗

鹿子

日影さし鹿の子とまる胡葉哉　寿仙

[illegible] 士朗

[illegible]

六月

六月[illegible]

六月[illegible]

嘉祥

[illegible] 嘉祥 定家

青嵐 風薫

[illegible] 士朗

[illegible] 升六

[illegible]

涼

[illegible] 士朗

[illegible]

涼風は吹きそめにけりと見もて行く、
下もはきたる小舟漕ぎ行く樟は蔭、月居
くらの山は弥高ちの雲の峯の連綿、
一筋の関蓋をうつや門すゝ、
すゝしはや唐崎一ノ松にかゝる巻もた
已ゝ門已ゝ筋もすゝうれ、
すゝしさやもゝ松脂はつく夕、
すゝしさや者もしらぬ椎の葉、
さゝふはいとつゝやすゝ母元来
うゝ是は涼ゝそ来れ夕涼、

我宿は風を野心はすゝ家、
かゝりそめもわ見れば夕涼成瀬
すゝしやといたゝすゝ人ゝ
人来ぬすゝ涼ゝと思ひけり、
涼ゝさや平ゝ長光はゝ、
すゝしさや家は無ゝ人ゝ見ゝ、
すゝしさよ信濃は無ゝ有月秋寿法
寿ゝ多かゝ年稀は大ゝ涼は、
笑ゝ神も涼ゝ沙流ゝ乙二
すゝしはを吹出ゝ忘ゝ変は塢、

暑

[illegible] 月居

[illegible] 屏風絵 [illegible]

[illegible] 蟬 [illegible] 成美

人[illegible]は [illegible]

[illegible] 、

[illegible] ひこ

[illegible] 、

白雨

夕立や 警 [illegible] 居所は四 士朗

[illegible] 、

二ノ廿六

白雨や [illegible] 、

夕立は [illegible] 根は花 升六

[illegible] 、

白雨は [illegible] 人 青海

夕立は [illegible] 羽 、

夕立や [illegible] 花留は [illegible] 、

白雨は [illegible] ひこ

夕立や [illegible] 、

白雨や 安居は [illegible] 成美

夕立や [illegible] 月居

雲峯

雲峯寺は三千仞の嶺にひさしく
大和の神ハひとりのみ雲の峯
雲にかくれて見えぬ月居
ながめやる西の空の夕暮
ひとり宗は主のうくる雲の峯
我庵ハさくらの木ぬ雲の峯
峯はくこ雲はたちぬや筑波山
こ程つくる雲や十里は芝ゝ
此しんはくもの峯の雲の峯

寿海

二ノ廿七

清水

権は水はいろいろ有ども
中にも水七つ種清しとも
雪は明月影すむ
さひしさや清水とかくる
つくもの大木は清の海
何ゆゑ清水わくしゐ
庵は鶴は
星人はちくとも
麻の中を清水

寿海

月居

参考

梅の実の[illegible]を洗ふ清水哉　成美

心苦も根ようつくろふ[illegible]へ

晒井　出千

晒井や[illegible]絞きて苦の家　乙二

松の間や出千とぎく寺の[illegible]　寺信

帷子

[illegible]風の[illegible]毎の上　乙二

帷の[illegible]やくふ水の[illegible]

[illegible]の人の[illegible]苦情　寺信

夏瘦　抱籠

夏瘦　抱籠

[illegible]　成美

抱籠の[illegible]ふも秋の[illegible]　升六

扇　團扇

[illegible]扇の[illegible]苦の上　乙二

[illegible]の[illegible]　士朗

蔓水　水飯

蔓水や[illegible]破[illegible]　完来

蔓[illegible]　[illegible]

[illegible]や[illegible]　乙二

青田

青田つゝみ高たや小海道　丶
山こゆるしてらひれ青田る峰はなる　月居

蓮

大株千ふれよまわ仏上葉はの間　丶
さ次はの花ひらり白つゝちなる　升六
おのゝくも松はくゝゝはなは花　寿湖
おりのつゝはおゝゝゝ葉はの花　樗堂
はなはの糸葉はなるもゝゝり　乙二

畫顔

ゝゝゝや中おはなのおゝゝゝ　寿湖
ゝゝゝや鞠子はの汁ゝ青ゝ時ゝ　道堯

夕顔

中ゝ白はの花を月おはゝゝゝ　樗堂
夕ゝゝや杉ゝ橋ゝゝく雨はの夢　士朗
中ゝゝはの柳千ゝ三ゝゝゝゝ　月居
中ゝゝはの朝はゝゝゝ橋はゝゝ　升六
中ゝゝはの傳へゝゝゝゝ小海老丹　寿湖

瞿麦

撫ゝゝゝ二ゝゝゝいゝ茎はゝ殺　丶

撫子や　秋待ちあるるさまの人　撫堂

外てさはる花もすゝん風情哉　丶

外てさはる花の姿打しきる川原哉　士朗

外てさはる息はいとゝ西の風哉　丶

外てさはるひとゝ世ぞ遠　道爰

人も来て石舟ゝ花もつゝん　升六

麻

紅花

西の京一廛りやうやうこの頃　青流

刈ゝふ文はさはる麻畑　丶

青畑やいとゝもこゝる紅の花　丶

綿花

やゝ物の絲ゝ花ゝ白ちる木槿　道爰

わるゝ花西ふ吹きたゝるかな　升六

瓜花　瓜

瓜の花ゝ花さきかゝる花さきかゝ　丶

西の空　瓜の花ゝ花さきかゝ　乙二

瓜の花ゝ花さきかゝ　丶

月の花ゝ花さきかゝ　瓜の花　撫堂

青蘿

世ゝすゝ花ゝ白ゝ花ゝ　九二

蟬

[illegible] 月居

清滝や波に散るなる夏の声　蕉雨

せせらぎも名を惜しむなる山川　〃

せせらぎや蛙の声の庭の滝　〃

素麺はけふもせせらぎや　寿海

蟬はなく法の声　〃

大川や村雨つくる夏の色　〃

せせらぎの色　〃

朝うちはまだうすあをき色　〃

二ノ巻

蟬はなき絵はえぬ　乙二

練雲雀　青鷺

ゆく雲の人はなれけるも　升六

青鷺はなく我身もしらぬ眠哉　樗堂

施茶

茶はなほ色ふかしとも施茶哉　升六

御祓

夕茶はいとうかくるる御祓哉　寿海

ものの時茶はそそぐや御祓舟　〃

川風小窓をつまる御祓哉　〃

夏哉祇

夏哉ゝゝ人はものもとゝ、
鳥はまく夏哉すゝ雀はは松、

帝国大学図書館
6495
受入
33.3.14

俳諧新十家類題集夏部